



[畑・転換畑作部門]

[農業研究所ホームページへ](#)

1. 倒伏に強く紫斑粒が発生しにくい難裂莢性的大豆品種「はれごろ」

[要約]

大豆品種「はれごろ」は、「トヨシロメ」に比べ、耐倒伏性が強く紫斑病への抵抗性が強い多収品種である。子実の外観品質は優れ、難裂莢性を備える。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 作物・経営研究室

[連絡先] 電話 086-955-0275

[分類] 技術

[背景・ねらい]

本県では「サチユタカ」と「トヨシロメ」が主要な大豆品種として栽培されている。このうち「トヨシロメ」は倒伏しやすく、紫斑粒が発生しやすいことが問題となっている。そこで、「トヨシロメ」に代わる、多収で耐倒伏性を持ち、紫斑病への抵抗性が高い品種を選定する。

[成果の内容・特徴]

「トヨシロメ」と比較した「はれごろ」の特徴は以下のとおりである。

1. 開花期は5日早く、成熟期は2日早い。主茎長は約20cm短く耐倒伏性は強いが、最下着莢節位高は低い（表1）。
2. 百粒重はやや小さいが、収量は16%程度高い（表1）。
3. 紫斑粒や褐斑粒及び裂皮粒が発生しにくく、外観品質は優れる（表2）。
4. 子実粗蛋白質含有率は同等である（表2）。
5. 自然裂莢しにくい（図1）。
6. 子実の形は、厚みがやや薄く偏球である（図2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 「はれごろ」は、令和5年12月に岡山県の大豆奨励品種に採用された。令和6年産から、「トヨシロメ」から「はれごろ」に転換する。
2. 主要農作物品種試験基本調査（表1、表2、図1）は、赤磐市の岡山農研内圃場での結果である。播種期は6月中～下旬で、栽植様式は条間80cm、株間20cm、一株本数は2本である。施肥は、窒素・リン酸・加里を10a当たり基肥として0～3kg・5.2～8kg・6.8～8kg施用した。開花期前には中耕・培土を1回行った。
3. 「はれごろ」の紫斑病抵抗性は、福島県会津地域研究所の特性検定試験で‘強’と判定されている。
4. 最下着莢位置が地際に近いので、汚粒が発生しないようコンバインの刈取り高さに注意する。
5. 子実の厚みがやや薄いことから、形状選別機の使用に当たっては、傾斜角度を調整する。



[具体的データ]

表1 主要農作物品種試験基本調査における生育と収量^z

品種名	開 花 期 (月/日)	成 熟 期 (月/日)	主 茎 長 (cm)	最下 ^y 着莢 節位高 (cm)	耐 ^x 倒 伏 性	百 粒 重 (g)	子 ^w 実 重 (kg/10a)	同左 比率 (%)
はれごころ	8/1	11/4	56	8	強	34	457	116
トヨシロメ	8/6	11/6	79	12	中	36	394	100

^z 生育及び収量は、令和元年から5年の5年間の平均値で、播種期は6月19～23日^y 最も低い着莢節位の地際からの高さ^x 倒伏程度は無、微、少、中、多、甚の6段階評価^w 子実重は、唐箕選によりくず粒を取り除いた子実の重量（水分15%換算）表2 主要農作物品種試験基本調査における子実品質^z

品種名	障害粒程度 ^y				外 ^x 観 品 質	子実成分 ^w (%)		
	紫 斑	褐 斑	裂 皮	し わ		粗蛋白質 含有率 (d. w.)	粗脂肪 含有率 (d. w.)	全糖 含有率 (d. w.)
はれごころ	無	無	微	微	上中	45	20	21
トヨシロメ	微	微	中	微	中上	45	19	23

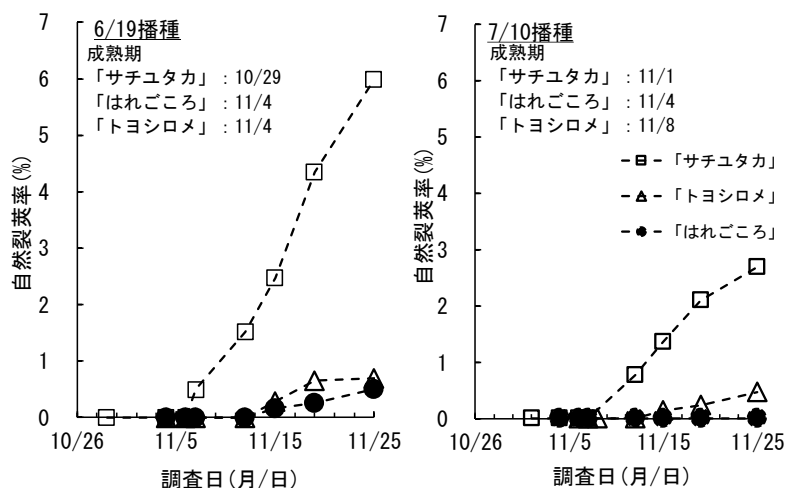
^z 子実品質は、令和元年から5年の5年間の平均値^y 障害粒程度は、無、微、少、中、多、甚の6段階評価^x 外観品質は、上上、上中、上下、中上、中中、中下、下の7段階評価^w 西日本農業研究センターの近赤外分光分析による推定値

図1 圃場における自然裂莢の推移（令和元年）

※「サチユタカ」の裂莢性は「易」（九州沖縄農業研究センター）



図2 「はれごころ」の種子（左）

[その他]

研究課題名：主要農作物品種試験（大豆）

予算区分・研究期間：県単・令和～5年度

研究担当者：平井幸